

避難の心得

▶正確な情報収集と早めの避難を!

雨で、広報車や防災行政無線の音声情報が聞き取りにくくなる恐れもあります。テレビ、ラジオ、インターネット等で最新の気象情報、災害情報、避難情報を収集し、危険を感じたら早めの避難を行いましょう。



▶避難の際には2人以上で!

避難する時は2人以上で行い、隣近所への声掛けを行いましょう。特に、一人暮らしの高齢者の方や、体の不自由な方が家庭や近所にいる場合は、配慮をお願いします。



▶防災上の配慮を要する方に対しては避難の支援を!

上述の高齢者や体の不自由な方のほか、妊産婦や障害者など防災上の配慮を必要とする方に対しては、迅速な情報提供により早めの避難を促しましょう。そのためには、あらかじめ防災上の配慮が必要な方とその避難を支援する方への情報伝達方法を決め、日頃から訓練に参加するなど準備が必要です。

▶外出が危険な場合は、垂直避難を!

自宅等が土砂災害危険箇所や家屋倒壊等氾濫想定区域に立地している場合、指定避難所や安全な場所に移動する立ち退き避難が必要となります。

立ち退き避難が原則となりますが、急激な降雨等により避難路が浸水していたり、夜間の場合などは、無理な避難行動は大変危険です。切迫した状況においては、屋内の2階以上に避難して安全を確保する「垂直避難」を行ってください。



▶浸水した場所を歩く際には安全確認を!

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖代わりにして、水面下の安全を確認しながら歩きましょう。マンホールのふたが開いていたり、見えない障害物があったりすると大変危険です。また浸水深が歩ける深さ(成人男性で約70cm、成人女性で約50cm)を越える場合は、無理に移動せず、高い場所で救助を待ちましょう。



水害・土砂災害に備えて

はじめに

いの町では、昭和50年の台風5号災害で甚大な人的・物的被害を受けましたが、その後の砂防・浸水対策事業などの取り組みにより、近年は大規模な水害・土砂災害被害はありませんでした。

しかし、平成26年8月の台風12号豪雨では、全壊家屋1棟、床上浸水152棟、床下浸水143棟の甚大な浸水被害が発生しました。

日本国内では、各地で大雨による災害が毎年のように発生しています。いの町水害・土砂ハザードマップは、仁淀川が決壊した場合の浸水範囲や浸水深とあわせて土砂災害危険箇所も表記したものです。

このマップを参考に、大雨による危険箇所や早期に立ち退き避難の必要な箇所を把握し、事前にできる対策や避難訓練に取り組みましょう。

非常持出し品と備蓄品の準備

安全に避難をするため、すぐに持ち出せる最低限必要なものはあらかじめ用意しておきましょう。また、停電や断水等に備えて家などに蓄えておくものも準備しておきましょう。それぞれの生活環境や家庭の状況に合わせて必要なものを準備する必要があります。

非常持出し品の例 (安全に避難するために)

- メガネ、補聴器、入れ歯
- 普段飲んでいる薬、おくすり手帳
- 救急医薬品(消毒や傷の手当てのため)
- ヘルメット、防災頭巾
- 運動靴
- 軍手、タオル、ティッシュ、ロープ
- 懐中電灯、ろうそく、ライター
- 携帯ラジオ
- 予備の電池
- 現金(小銭が重宝)
- 貴重品(健康保険証、運転免許証、預金通帳、印鑑など)



備蓄品の例 (停電や断水などに備えて)

- 飲料水(1日あたり1人3リットル)
- 食料(乾パン、クラッカー、缶詰、レトルト食品等)
- ナイフ、缶切り
- 粉ミルク、ほ乳びん(赤ちゃんがいる場合)
- やわらかい食べ物(高齢者や乳幼児のため)
- アレルギーの起こらない食べ物
- ペット用品(ペットフード、ケージ、トイレ等)
- ラップ、ビニール袋、使い捨てカイロ
- 毛布、着替え、石鹸、ドライシャンプー
- 簡易トイレ、おむつ
- 生理用品



昭和50年、台風5号災害での北内地区から西向き状況。鉄道盛土を除き、周囲一帯が浸水している。



同じく昭和50年、台風5号災害時の駅東地区の様子。



平成26年8月の台風12号豪雨時の枝川地区の様子。浸水して移動できなくなった車両が取り残されている。

情報の入手経路や避難の心得、避難の判断基準などの情報をあらかじめ知っておくとともに、ハザードマップを使って、避難先や避難経路について、家族で話し合っておきましょう。